

～みんなの認知症情報学会 第2回年次大会における発表～

## 介護付きホームまどか深大寺とベネッセ シニア・介護研究所が ポスター発表「『役割のある生活』が笑顔を増やす！」で優秀発表賞受賞

株式会社ベネッセスタイルケアの社内シンクタンクであるベネッセシニア・介護研究所は、まどか深大寺（介護付きホーム・東京都調布市）とともに2019年9月7日、8日に開催された「みんなの認知症情報学会第2回年次大会」においてポスター発表を行い、優秀発表賞を受賞いたしました。

発表の概要は以下の通りです。

- 発表演題：「役割のある生活」が笑顔を増やす！
- 発表者：まどか深大寺 鈴木一也 成澤優美子 石橋誠  
ベネッセ シニア・介護研究所 福田亮子
- 発表内容：

安全・安心ばかりを優先するのではなく、できること・やりたいことを本人にしてもらう自発支援の取り組みは、「その方らしさ」の発揮に繋がり、QOLを向上させると考えられる。当社では、社内各ホームの好事例から抽出した認知症ケアのコツをまとめた「認知症ケアメソッド」も活用しながら、そのような取り組みを行っている。

まどか深大寺では、「家に帰ります」と頻繁におっしゃるご入居者について、アセスメント結果や普段の生活の中で収集した情報から、その方ならではの役割をしていただく「役割を見つける」などのメソッドを使った取り組みを行うことが、その方らしさの発揮に繋がるのではと考えた。そこで、本人の趣味や特技も活かし、ホームで行うイベントの「実行委員」という役割を担っていただいた。

このご入居者はイベントの準備から本番にいたるまで、ポスター作成や司会などの役割を果たし、その過程を楽しまれた。その後も、日常生活の中でさまざまな役割を担うようになった結果、「家に帰ります」という発言が減り、アクティビティなどの活動の参加回数が増え、笑顔も増えたことが、生活の記録からも示された。ご入居者本人の思いや長けている能力を知った上で、本人がそれに見合った役割を果たせるよう配慮することが、その方らしさの発揮と笑顔の増加に繋がったと考えられる。



加藤忠相大会長より  
表彰状をいただきました